

各位

株式会社トランスジェニックグループ

### 第 28 期定時株主総会の質疑応答の要旨について

2026 年 6 月 18 日(木)、第 28 期定時株主総会を開催し、5 名の株主様から 8 件のご質問を頂き、代表取締役社長 福永（なお、一部の質問については担当取締役 高島）が回答致しましたので、その要旨をお知らせいたします。

#### 記

- (質問要旨) 投資有価証券売却益について、免疫生物研究所の株の売却益はいくらか。
- (回答要旨) 1 億 3,700 万円となります。
- (質問要旨) エクソンヒト化マウスの米国特許のリリース前に株価が上昇したが、情報が漏洩していたのではないか。
- (回答要旨) 情報漏洩ではございません。弊社には特許取得の連絡ルートがございますが、今回は米国特許庁から直接情報を取得した方がいらっしゃいました。弊社が事実を確認できたのはその後のタイミングであったため、IR 開示は閉場後となりました。
- (質問要旨) 創薬支援事業（磐田研究所）における受託試験データ不正問題について、具体的な再発防止策の運用と信頼回復の手ごたえの進捗が知りたい。
- (回答要旨) 経営層と現場の直接対話による組織風土改善や、DI（データ整合性）対応の強化としてデータの自動記録・ロックシステムの導入による改ざん不可能な体制への移行、QAU（信頼性保証部門）による抜き打ち査閲の頻度向上を実施しております。主要取引先へ個別説明を行った結果、厳格な運用姿勢に対しての信頼の再構築をいただきつつあります。
- (質問要旨) 神戸研究所の閉鎖と拠点集約に伴い発生した特別損失について、来期以降の具体的な固定費削減効果と、集約後の創薬支援事業の拡大戦略が知りたい。
- (回答要旨) 本再編が完了する 2027 年 3 月期以降、設備管理コストなどの圧縮により大幅な固定費削減効果を見込んでおります。集約先では、強みである各種発がん性試験の受託キャパシティを拡張し、受注上限を引き上げることで早期の黒字化と高収益化を達成いたします。
- (質問要旨) 東証スタンダード市場への移行を機に、新たな株主層を呼び込むための業績改善、復配に向けたロードマップ、および株主還元の基本方針について経営陣の決意を伺いたい。

- (回答要旨) 安定配当の維持・継続を基本方針としつつ、当期の無配を厳粛に受け止めております。2027年3月期は売上高140億円、営業利益2.6億円の黒字転換を必達目標とし、拠点集約によるコスト削減と受注回復を最速で軌道に乗せることで、早期の復配に向けて邁進いたします。
- (質問要旨) 経皮投与による発がん性試験の開発進捗状況と事業規模について、期間は2年程度かかり、年間3~4億規模という見込みに変化はあるか。
- (回答要旨：高島) 実験動物中央研究所および日本クレアとの共同研究は2年目に入っており、7月の日本毒性学会でも一部成果を発表いたします。すでに経口投与では受注を獲得しているほか、学会を機に新たな引き合いもきております。「2年間に2~3本」という受注ペースの目標は維持できております。
- (質問要旨) エクソンヒト化マウスはいつごろから収益につながるのか。創薬支援事業の利益はどのくらいか。
- (回答要旨) マウスのモデルはすでに完成しており、基礎研究用としての出荷を開始しております。今後は薬効・薬理試験や安全性試験へ繋げていく方針です。基礎研究段階では2~3百万円ほどの規模ですが、多くの匹数を要する安全性試験に移行すれば当該マウスを用いた試験金額は1試験あたり数千万円の規模になります。これらを積み上げつつ、主力として短期発がん性試験(1試験あたり1億円超)を組み込み、非臨床試験全体の受注ボリュームを底上げしてまいります。
- (質問要旨) 投資・コンサルティング事業における、円安や原材料調達難に伴うコスト上昇分の販売価格への転嫁の取り組みと、既投資先の収益強化・在庫管理適正化の施策が聞きたい。
- (回答要旨) EC子会社において需給に応じた自動価格改定を導入し、商品調達コストの上昇分をタイムリーに販売価格へ転嫁しているほか、適切な為替予約を実行しております。また、グループ共通の経営インフラを活用し、既投資先の在庫回転率向上と固定費削減を進めております。

以上